

【p 10～ p 13】 しゅく川公園

1 資料活用にあたって

- 本資料は、１年生の４月または２年生の４月に使用することになるが、１年生の４月に用いる場合は、長文のため紙芝居や場面絵をもとに語り聞かせるなど工夫して、話の筋を理解させるとよい。
- 本資料は、身近な自然に親しみ、動植物に優しい心で接しようとする意欲を育てようとするものである。自然環境を考えるのは高学年で、自然愛護、環境保全を考えるのは中学校の段階である。

2 資料の読み方のポイント

- 変化するのは：たけし（子どもがたけしになって考えられるように発問を工夫する。）
- 変化するきっかけ（助言）は：まなちゃんのおじいちゃんの話
- 変化するところは：「そうやったんや。」

3 読み物資料の素材について

【参考URL】

- ・ 西宮市環境局環境緑化部公園緑地グループ
<http://www.nishi.or.jp/homepage/hana/sakura/>
- 夙川公園の桜について
 - ・ 夙川公園は、南北約2.7kmの河川敷の両岸に桜と松の並木が続く「日本さくら名所百選」の一つに選ばれた兵庫県でも有数の桜の名所である。「日本さくら名所百選」には、県内から姫路城と明石公園の桜も選ばれている。
 - ・ 小さな苗木がみごとに花をつける大木になるためには、木の生命を支え、見守る人たちの働きが大きい。現在、西宮市土木局公園緑化部公園緑地課がその仕事を担っている。美しい自然を維持するため、「桜の木の手入れ」を計画的に行っている。「手入れ」のほとんどが、弱くなっている桜に対する処置である。①枯れ枝の剪定、②土壌改良、③苗木の植え付け、④夏場の水やり、⑤病気や老いた桜の世話等である。
- 桜の育成について
 - ・ 桜の苗木を植える時期は、12月から2月下旬である。植えてすぐは、根がしっかりつくように支柱で固定し、周囲をロープで囲み、立ち入らないように表示する。苗木の周囲の土が踏み固められると土がしめつけられ、土の中の酸素が足りなくなり、根が弱る原因になるからである。
 - ・ 苗木を植えて三年間程は、3日に一度桜の葉の色の変化に気をつけ、順調に生長しているかを見守っている。特に夏場の水やりは欠かせない。苗木の周囲に土を盛り上げその中に水をたっぷり入れる。
 - ・ 花つきが悪く弱っている桜は、樹木医（木のお医者さん）の診断を受ける。樹木医が診断し、対策をたてる。病気になったり弱ったりする木の症状にはいろいろある。根や幹に菌が入りコブができた木、虫が入り込んだ木、水が足りなくて枯れた木、塩害にあった木、排気ガスにあった木等である。対策として、菌を取り除いたり、根を切除したりする。
 - ・ ソメイヨシノの寿命は約50年である。

4 展開の具体例

しゅく川公園

- ・主 題 名 ・動植物を大切に D (18)
- ・資料の概要 ・いつものように遊びに出かけたたけしは、夙川公園で苗木を植えているまなの祖父を見つける。たけしはまなの祖父との会話を通して、「根が呼吸している」「年をとる」「病気になる」「医者にかかって手当をする」という事実を知り、共に生きているものとして桜の木に愛おしさを感じる。苗木をなでながら、笑顔で話すおじいちゃんの話の聞き、たけしは、木が大きくなっていく姿を想像しながら、晴れ渡った空を見上げる。
- ・ね ら い ・まなのおじいちゃんの話の聞いて道徳的に変化するたけしを通して、動植物に優しい心で接しようとする道徳的実践意欲を育てる。

・展開の具体例

	学習活動	主な発問と予想される児童の反応
導 入	・今日の資料に興味を持つ。	副読本P12の写真（夙川沿いの桜）を見ましょう。
展 開	・資料の範読を聞きながら黙読をする。 ・目をぱちくりさせた主人公の気持ちを考える。 ・「そうやったんや。」と言った時の主人公の気持ちを考える。 ・晴れわたった空を見上げる主人公の心の動きを考える。	目をぱちくりさせたたけしは、どんなことを思っているのでしょうか。 ・おどろいたな。さくらが呼吸をしているなんて。 ・動かないのに、本当だろうか。 「そうやったんや。」と言いながら、たけしは、どんなことを考えているのでしょうか。 ・木も人間と同じように年もとるし、病気にもなるんだ。 ・木を大切に守っている人達がいるんだ。 ・みんなで木を大切に育てているんだ。 晴れわたった空を見上げながら、たけしはどんなことを考えているのでしょうか。 ・この苗木が大きくなるのが楽しみだな。 ・ぼくも見守っているからね。 ・ぼくと一緒に大きくなろうね。 ・ぼくも桜の木にやさしくしたいな。
終 末	・感じたことを発表する。	感じたことを発表しましょう。

桜も呼吸することを知り、「桜が生きていること」を意識し始めた主人公の心を考えさせる。

おじいちゃんの話がきっかけとなり、桜を愛おしむ意識が主人公に起こっていることをおさえる。

桜を愛おしむ意識が高まり、「ぼくも木に優しい気持ちで接しよう」という実践意欲を強めていることをおさえる。